

育成実績の評価

1.勝ち負けだけで評価しない

▶ バasketボールを通じて社会で必要なことを学ぶ

スポーツは何のためにやるのか？ 親はなぜBasketボールをやらせたいと思ったのか？ あるいは本人はなぜBasketボールをやりたいと思っているのか？ 選手はそれぞれ頑張る理由があるはずです。進路選択のために頑張る人もいれば、純粋に楽しいからやる人もいるだろうし、勝ったときの喜びのため、うまくなりたいから……と色々な理由はさまざまです。

Basketボールを通じてたくさんのことを学ぶことができます。共にプレーする仲間にもいろいろなタイプがいるため、気の合う仲間がいる一方で、合わない仲間がいることもあるでしょう。気の合わない仲間がいたとしても、一つのチームとして戦うときには、「気に入らないから」と言ってパスをしないというようなことがあってはいけません。チームの仲間と協力する、決まりを守るといったことを学んでいくこともとても大切です。



チームとして目的に向かって頑張っていくというのは、社会人になっても同じです。一つの組織、一つのセクションとして、みんなが同じ方向にベクトルを向けて協力していきます。このように社会で起きること、社会で必要なことを、バスケットボールを通じて学ぶことができる。これをライフスキルと呼びます。

勝つための指導をすれば勝利に近づきやすくなるのは事実。しかし、本当に最後まで勝つのは1チームだけです。だとしたら育成実績の評価は試合の結果だけでなく、ライフスキルにつながる指導をしている指導者もしっかりと評価すべきだと考えています。何のためにバスケットボールをやるのかということ指導していくことで、選手は心の豊かさを増していきます。

技術面でも目の前の試合に勝つことだけを考えた指導では、選手のためにならないことも多々あります。1対1のアタック技術、1対1のディフェンス技術、状況判断……いろいろの「い」となる基本をしっかり教え、将来花開くための土台を作ることが育成年代の指導者の役割の一つです。こうしたことをできている指導者が、素晴らしい指導者だという評価軸をもっと広げていかなければいけません。

